

令和 4年度 園評価書

園番号 55 園名 和田島こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている, C:あまりできていない, D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
「心豊かで たくましい 両河内の 子」	考えよう・伝え よう・やってみ よう	自分の思いを十分に表出しながら、好きな遊びを存分に楽しんでいる	○子どもの思いを肯定的に受け止め、好きな遊びが十分に楽しめるよう環境を整えることで、子どもたちが自分の思いを素直に表現しながら遊んだり、好きなことやイメージを伝え合いながら遊んだりする姿が見られるようになった	A	A	○コロナ禍で様々な制限がある中だが、確実に園運営をすすめてくださっているのがとてもありがたいです ○お年寄りが多い地域で育つ子ども達は、心優しく性格的におとなしい子が多いが、そのような子ども達が自己表現できる環境を心がけ、接して下さっていると思います ○先生も子ども達も笑顔で大きな声で挨拶をしているので、見ていて気持ちが良いです。体をたくさん動かして遊んでいるのでたくましく育っていると感じました	○これまでと同様に個の思いを尊重しながら子どもの興味や関心を探り、「これがやりたい」「明日もやりたい」と思えるような遊びがたくさん生まれるよう環境を整えていく
		様々な物に興味や関心をもち、友達と一緒に考えたり工夫したりして遊ぶ	○子どもの今の興味や関心、遊びに必要な物を探り、次の遊びにつながるよう環境の準備をした。友達にも目が向けられるように友達の姿を知らせることで誘い合ったり、考えを伝えたりしながら遊びが進められるようになっている	A	A		○友達とイメージの共有がうまくできないために遊びが途切れてしまうこともある。共有できるような遊びの機会を増やしたり、遊んだことが可視化できるようにしていく
		生活に必要な言葉がわかり、自分からすすんで挨拶や会話をしようとする	○保育教諭自身が積極的に挨拶をしている姿を見せたり、場面によってどのような挨拶があるのか一緒に考えたりした。子どもからの挨拶や言葉がけが増えた	A	A		○嬉しい言葉や悲しい言葉などを一緒に考えながら、挨拶も含めてどのような言葉で伝えたら良いのかを考えていく

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における 教育及び保育	(1)0歳から小学校 就学前までの一貫 した教育及び保育	一人一人の発達や経験の差を把握、理解し、それに応じた援助を行っている	個の育ちやサポートの必要なところを見取り、職員間で共有し、一人一人に合った経験ができるよう配慮した	A	A	○子どもによって在園時間が違ったり、家庭環境に違いがあったりして、すべての子どもにも同じように関わっていきながら個に合わせて教育保育を行うことはとても難しいことだと思います。勤務体制での申し送りや園児の体調を把握しながら、その場のその子に合わせながら見守ったり関わったりしていきましょう	○今後も一人一人の現況をしっかりと把握し援助していく。クラス担任以外の職員も個を把握できるよう職員間で声をかけ合っていく
	(2)一日の生活の連 続性及びリズムの 多様性への配慮	在園時間が異なる子どもに配慮し、一人一人の安定した生活の流れを作っている	○7:00~18:00の間で様々な時間が在園しているため、遊びの内容や休息のタイミングなどに配慮し、ゆったりと生活ができるように関わった。職員同士の伝達をしっかりと行うことでその日の遊びが継続してできるようになった	B	B		○早番、教育保育時間、午睡、遅番と勤務時間の違う職員が対応する場合もあるので、きちんと伝達し子どもの1日の生活を支えていく
	(3)環境を通して行 う教育及び保育	子どもが夢中になって遊べるよう、興味や関心に沿った環境設定ができている	○季節や行事、子どもの興味に合わせて環境を整えることで様々な遊びや素材に興味を持てるようになり、楽しんだことで繰り返し遊ぶ姿が見られるようになった	A	A	○子どもたち一人一人の特徴を生かした教育、保育があり大変良いことと思います。子ども達の長所、短所を伸ばしていける方法を職員間で共有していきましょう	○子どもの様子や言葉から興味や関心のある物を捉え、環境を整えていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	子ども・職員が危機を認識し、自ら判断し行動できる力を身につける	○避難訓練、交通安全指導年12回、不審者対応訓練年4回実施している。様々な状況を想定して訓練を行うことで、子どもたちが慌てずに避難することができるようになってきている。今年度は実際に被災地になり、より意識が高まった	A	A	○霜が降りた時、それをアイスに見立ててカップに集めて遊んでいました。どうやったら氷がたくさん集まるか工夫していて、子どもが集まり、次々と遊びが広がっていくのがとても楽しそうでした。先生方が子どもの言葉をもとに声掛けをしてくれて、結果子ども達が自分で考えながら遊んでいる様子もよくわかりました	○今後も繰り返し訓練を行っていく。また、様々な職種の職員が意識を高くもつことができるよう、訓練を行うごとに子どもの様子や課題の共有をしていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	自分の健康に関心をもち、健康に過ごす生活習慣を身につける	○受け入れ時に保護者とともに体調の確認をおこなった。子どもたちにはうがいや手洗いの大切さを伝え、必要に応じて自ら行うことができるようになった	A	A		○どうして必要なか伝えながら、健康を意識して生活できるよう今後も引き続き行っていく
4 特別支援教育・ 保育	(1)支援体制づくり の推進	一人一人の特性を理解し、指導内容、方法を職員間で共有する	○一人一人の保護者と年2回面談を行い発達や指導内容についての確認を行った。会議などでは職員間で指導内容を共有し、発達を理解し関わることができた	A	A		○一人一人への関わり方、得意なこと、苦手なこと等を今後も共通理解ができるよう話し合いを継続し職員全員でその子を支えていけるようにしていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	自分の役割に責任をもち、組織として協力し合いながら運営をすすめている	○日々の活動や行事など、見直しをもって計画、準備をすることができた。役割を確認し協力し合いながらすすめることができた	A	A	○お知らせボードには写真を掲示してくれてあり、今日の園での様子が一目でわかってとても良いと思います。それと同時に今日のエピソードをたくさん話してくるため、交流深まりました	○職員が少ないため、一人一人の業務負担は大きいですが、今後も役割分担しながらも協力し合い園運営をしていきたい
6 研 修	(1)研修体制の充実	研修テーマ『ワクワクをたくさん見つけるための援助』に基づき遊びを分析したりしながら、環境構成や援助について学び合い、実践している	○園内研修では、視点やテーマに添って話し合いをすることで、手だてに基づいてできていることと出来ていないことが明確になり、保育内容の改善をすることができた	B	A	○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について、より具体的な姿について園、保護者、小中学校で共有できるようにさらに連携を深めていけると良いと思います	○子どものワクワクと保育教諭のワクワクの共有ができるようにするために、今後も園内研修を行い、学びを保育に生かしていく
7 教育・保育環境 整備	(1)教育・保育環境 の充実	子どもの興味や関心に寄り添いながら、自ら考え、工夫して遊べる環境を用意している	○日々の子どものつぶやきから子どもたちの興味や関心のある物を探り、自ら遊べるよう環境を用意したことで、自分で考えたり工夫したりしながら遊ぶ子が増えた	B	A		○子どもの楽しんでいることを大切にしながら、こどもが「もっとやりたい」と遊びが継続するよう環境を整えたり関わったりしていく
8 家庭との連携・ 協力	(1)家庭教育への支 援機能の充実	園から様々な手段で情報発信をして家庭との連携に努める	○降園時のお知らせボードでは写真を多く使い、こども園での活動の様子や子どもの姿がより伝わりやすいように工夫した。子どもの成長の様子がわかるように丁寧に声をかけ知らせるようにした	A	A	○子どもも先生も明るく温かな雰囲気の中生活している様子を拝見して、子ども達に本当に幸せだと思えます	○子どもの成長や日々の様子を伝えられるよう、引き続き掲示物や伝え方を工夫しながら行っていく
9 近隣の学校との 連携	(1)近隣の園との連 携の推進	地区の小中学校との情報交換や交流を深めると共に課題を共有し連携する	○近隣校へ遊びに行かせていただいたり、小学生に園まで遊びに来てもらったりなどの交流があった。子どもたちは学校の子どもたちとの触れ合いを通して、小学校に期待が持てるようになった	B	B		○両河内小中学校に協力を求め、今後も交流を継続して行っていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づ くりの推進	園外保育で地域の人と触れ合い、様々な機会での園の発信に努める	○地域をあげてのイベントは中止になるものもあったが、ザリガニ釣りや茶摘み、じゃがいもやサツマイモの収穫、座禅会など地域の方の協力で経験することができた	A	A		○職員がこの地域について見聞を広げ、子どもたちがこの地域が大好きな子に育てる保育を行っていく